

# 空襲による被害

豊川海軍工廠の空襲は、26分間に3,256発もの500ポンド爆弾が投下された密度の高い空襲であったため、言語に絶する激しいものであり、また退避命令の遅れも重なり2,500人以上もの尊い命が失われ、その数倍にも及ぶ人々が負傷しました。突然の空襲で人々は必死に逃げ回りましたが、工廠の周囲が堀や塀で囲まれ脱出する門が限られていたことや、防空壕が至近弾に耐えられないものであったことも被害を大きくさせました。首のない遺体、引きちぎられた手足、助けを求める人々など、その惨劇の光景は空襲体験者の多くの手記に記されています。

空襲終了後には負傷者の搬出や遺体の運び出しが行われました。豊川海軍共済病院は直撃を受けたため国府高等女学校・飯盛山分院・牛久保国民学校・花井寺などが臨時救護所となり、おびたしい人が収容されました。遺体は第二工員養成所の校庭に並べられましたが、犠牲者の数が多く火葬施設が不足したことや、夏場で遺体の腐敗が進むことなどから、千両と諏訪に急造された墓地に仮埋葬されました。



空襲後の豊川海軍工廠（正門附近）